

# 福井県におけるラミーカミキリ(コウチュウ目)の 分布拡大状況

下野谷 豊一\*

Spreading the distribution of *Paradeneia fortunei* (Saunders, 1853)  
(Coleoptera, Cerambycidae) in Fukui-prefecture, JAPAN

Toyokazu SHIMONOYA\*

## 要 旨

最近、福井県内でも採集記録が目立ち始めた、ラミーカミキリに分布状況を調査した結果、本州の日本海側での北限と考えられる生息地を確認した。

キーワード：甲虫，温暖化

## はじめに

Bates(1873)は1864～1872年の間、長崎に滞在したG.Lewisによって採集されたラミーカミキリ*Paradeneia fortunei*(Saunders, 1853)を記録している。それは栽培用に長崎に持ち込まれたイラクサ科のラミー(カラムシの変種)*Boehmeria nivea* var. *candicans* Weddとともに侵入したとされ、日本から初めての記録となる。さらに本州への侵入は少し遅れて1899年頃と考えられている。また、国内では冬季の平均気温が4℃の線より南に分布している。(穂積, 1979)

福井県では鯖江市神明で採集されたのが最初で(井崎, 1958), その後、しばらく本種の採集記録がなかったが、1999年に高浜町音海から(斎藤, 1999), さらに河野村甲楽城(長田, 2002)から記録されている。これは暖地性の本種が、昨今の温暖化の影響によって北へ分布を拡げている可能性が高いと考え、2002～2005年の間、敦賀市以北の嶺北地方の海岸沿いを通る、国道305号線の南越前町大谷から石川県境までを、主に国道周辺での分布調査を行なった。

## 調査結果と考察

2002年6月26日の最初の調査地、南越前町大谷でカラムシ*Boehmeria nipononivea* Koidz(イラクサ科)が寄主植物であることを確認したので、以後の調査はカラ

ムシの群落を探して、葉上に静止中の成虫を採集または観察した。成虫はカラムシの新芽に近い部分の茎を切り倒す習性があるため、倒された部分が枯れて変色している(写真1)、枯れている葉を探すだけで容易に見つめられた。また、成虫はほぼ例外なくカラムシの葉上に1頭ずつ(ごく一部がカラムシの周り別の植物の葉上に静止)静止していた。1枚の葉に2頭以上静止しているものや、交尾しているものは観察していない。驚かさない限り飛び立つことはなく、恐らく夜行性で昼間は休止しているであろう。葉上に静止していると鳥などの天敵に狙われ易いと思われるが、成虫の黒と薄緑色の色彩は人間の目には派手であるが、この色彩と斑紋が天敵に対しては鳥の糞などに見える効果があるのかもしれない。1頭ずつ止まっているのも、こんなところに理由があるのだろうか。



写真1 切り倒されたカラムシ

\*〒910-0004 福井市宝永3丁目31-12

\*3-31-12 Houei, Fukui City, Fukui 910-0004, Japan

調査結果を以下に示す。地名のあとの括弧内の数字は採集頭数。

カミキリムシ科 Cerambycidae

ラミーカミキリ *Paraglenea fortunei* (Saunders, 1853)

(写真2)

2002年6月26～28日 南越前町大谷～福井市大窪町までを、車で移動しながら採集、観察。

南条郡南越前町：大谷(12, 多数観察), 河野(18, 多数観察), 甲楽城(5), 糠(1頭観察)

丹生郡越前町：米ノ(11, 多数観察), 高佐(1), 茂原(3), 厨(4)

丹生郡越廼村：ハツ俣(1)

福井市：長橋(1)

2003年6月22日 南越前町大谷～あわら市浜地までを調査。

南条郡南越前町：大谷(多数観察), 河野(多数観察), 甲楽城(1), 糠(1頭観察)

丹生郡越前町：米ノ(多数観察), 高佐(3), 茂原(1), 厨(2), 新保(1), 玉川(1)

厨で採集した中に、前胸背面の黒色紋の広がったが1頭あったので、写真を添えて記録する。(写真3)

丹生郡越廼村：ハツ俣(1), 蒲生(1), 居倉(2)

福井市：長橋(2), 糸崎(1)

2003年6月25日 越前町厨～三國町黒目までを調査。

丹生郡越前町：厨(1), 新保(1), 新保より北の三國町黒目まででは観察できなかった。2003年7月27日南越前町河野～赤萩の山に向かう2003年た道路沿いと、赤萩の集落の上部にある畑地を調査。

南条郡南越前町：河野(3), 赤萩(8)

2004年7月1日 南越前町大谷～福井市大窪町までを調査。

南条郡南越前町：大谷(2), 河野(観察), 糠(1), 丹生郡越前町：米ノ(2), 茂原(3), 新保(1) 新保から福井市大窪町の間では観察できなかった。

2005年6月9日 南越前町大谷～糠までと丹生郡越廼村蒲生～福井市大窪町を調査。

南条郡南越前町：大谷(2, 生息場所である道路沿いの草地のカラムシが、草刈りの際に刈り取られていて、成虫は僅かしか観察できなかった), 河野(1), 甲楽城, 糠では観察できなかった。

丹生郡越廼村蒲生～福井市大窪町では全く観察できなかった。

なお、黒川秀吉氏からは、敦賀市での採集データを教えたいただいたので、合わせて記録するとともに深謝申し上げる。黒川氏によると1999年にも同一地点で採集を行っているが、見ていないとのことで、侵入して間もないのかもしれない。

2000年6月16日 敦賀市天筒山 1頭, 黒川秀吉 採集

2000年6月21日 敦賀市天筒山 1頭, 黒川秀吉 採集

南越前町から越前町では国道沿いのカラムシの群落には、ほぼ例外なく本種の発生がみられ、場所によっては個体数もきわめて多く、確実に定着している。一方、越前町以北の八ヶ俣より北、特に長橋から糸崎には道路沿いにカラムシの群落が連続して見られ、南越前町あたりの状況から考えると、多数の成虫が発生できそうな感があるが、確認された個体数は僅かで、また、年によっては全く確認されないこともあって、確実に定着、発生しているかどうかの判断は難しい。国道305号線を北上する車両に付いて移動した可能性も否定できない。

本州における本種の分布域は冬季の平均気温が4の等温線の南側とされるが、福井県においては越前町



写真2 カラムシ葉上の成虫



写真3 黒化型の成虫

のあたりになる。今回の調査結果では、それよりやや北の地点でも確認できたことになる。さらに、1990年あたりからの急激な温暖化の影響を考えると、越前町以北での確認例は、温暖化による気温の上昇に伴いない生息域を北へ拡大しつつある時期とも考えられ、侵入、定着の初期かも知れない。もしそうだとすると福井市糸崎町が現在の北限の生息地で、これが日本海側の北限となる。越前町あたりが日本海側の分布の北限になる種の一つにクマゼミ(セミ科)があるが、この種も越前町での定着が確認されたのは最近で、やはり温暖化が分布域を北へ押し上げているのであろう。

次に生息環境であるが、今回生息を確認した地点は何れも道路脇や道路と山林の境に生えたカラムシの群落で、それも人間によって改変されたところに生えたカラムシ群落に限られた。2003年7月27日に調査した赤萩では、集落より少し登った山の斜面を切り開いて造成した畑の脇に生えたカラムシにのみ発生していて、近くを流れる溪流沿いに生えるカラムシには全く見られなかった。この日は赤萩の集落よりさらに上部の国道8号線との交差する地点まで、県道沿いに登ってみたが、カラムシはあってもラミーカミキリの姿はなかった。標高を上げることによる気温低下の影響も考慮する必要があるが、やはり人為的に改変された環境の有無が重要な生息条件であろう。これは福井県に侵入している本種以外のアメリカシロヒトリ、ヒロヘリアオイラガ、アオマツムシ、ヨコズナサシガメなど多くの外来種でも同様で、最も特徴的なことと言える。

古い話にはなるが、戦後間もない頃の冬、祖母につれられて福井市原目町の親戚を訪れたことがある。その家には囲炉裏があり、その囲炉裏にかけた鉄鍋であられを煎って食べさせてくれたことがあった。そのあられを入れてあった容器が、カラムシ(ラミー?)の繊維で造ったオクソ鉢(祖母から教えられた名前)で、江戸時代のオコソ頭巾から考えると、オコソ鉢かも知

れないが、祖母は間違いなくオクソ鉢と言っていた。その容器は直径40cmほどで、高さが10cmほどの黒い色のおわん型の容器で、見た目には汚らしい感じの器であった。

「福井県植物誌」(渡辺定路, 2003)にもカラムシとナンバンカラムシ(ラミー) *B.nivea* Gaudichの2種が掲載されている。いつごろ福井県に持ち込まれたかは判らないが、祖母(明治16年生まれ)の話では、子供の頃から見ているとのことで、かなり前に持ち込まれていたものと思われる。ラミーカミキリと一緒に入らなかったのであろうか。

#### 引用文献

- 井崎市左エ門, 1958, 福井県の甲虫(3). 福井県博物同好会会報, (5), 21-27.  
 斎藤昌弘, 1999, 福井県甲虫類の分布資料(10). 福井虫報, (24), 43-46.  
 長田勝, 2002, 福井県河野村でラミーカミキリを採集. 福井虫報, (30), 16.  
 長田勝, 2002, 越前海岸におけるラミーカミキリの追加記録. 福井虫報, (31), 14.

Spreading the distribution of *Paradenea fortunei* (Saunders, 1853) (Coleoptera, Cerambycidae) in Fukui-prefecture, JAPAN  
 Toyokazu SHIMONOYA

#### Abstract

The distribution of a beetle *Paradenea fortunei*, which has often been recorded in Fukui Prefecture recently, was investigated. This investigation renewed the most northern distribution in the Japan Sea side area of Honshu main island.

Key words: beetle, global warming

